

9割

発音が

リスニングは

英語美整発音メソッド トレーナー
根本紫都香
Shizuka Nemoto

「通じない」「聞き取れない」から卒業!

リスニングが
一気にラクに
聞き取れる!

1ヶ月で
TOEICスコア
100点UP!

英語が分かる
自信と喜びが
手に入る!

3分で英語耳を作る
魔法の発音矯正メソッド

【リスニング力を上げる魔法のレッスン】

はじめに

英語のリスニングが苦手・・・

テストではいつもリスニングが壁になり、合計スコアが伸びない・・・

知っている英語も、文字で書いてあれば分かるのに、音声になると分からない・・・

このようなお悩みはありませんか？

この理由は大きく 2 つあります。

1. 学校の英語では、リスニングの分野をほとんど学んでいなかった。
2. 今まで、英語の発音をしっかりと学んだことがない。

1. 学校の英語では、リスニングの分野をほとんど学んでいなかった。

そもそも学校の英語科の先生達は、リスニングとスピーキングの指導を行う方が少ないため、生徒は教わる機会がないという現場の背景があります。

私のエピソードをお話します。

中学校で英会話力を伸ばす授業において第一人者でいらっしゃる区立中学校の先生のセミナーを聞きに行った時のことです。通常、聴講生には中学の英語科の先生が多いそうですが、座学タイムは話を聞いてくれても、受講生同士の英会話の実践ワークに差し掛かると、途端に帰り出す先生がいるとのこと。せっかく授業で英会話力を伸ばす指導法を学びに来ているのに、先生ご自身が英会話を避けているという現実です。

また、公立小中学校の英語科の先生たちに「発音レベルアップ研修」をさせて頂いた時のことです。文部科学省が改定した、「英語の授業は英語で教える(オール・イングリッシュ)」という新指導要領に困惑されている先生が多数いらっしゃいました。

というのも、学校の先生たちは英文法指導の専門家であり、英会話の教師ではありません。英語科の先生とはいえ、専門域と異なる「リスニング・スピーキング・発音」などの英会話コミュニケーションに対して苦手意識を抱えているのは、一般の方と同じなのです。

高校の英語の先生も、英会話は苦手です。

実は私の従兄弟の長女も、英語のテストでいつもリスニングの壁に苦しんでいた一人です。授業でのリスニング指導はというと、宿題でCDを聞くだけで解説なし。リスニングのスク립トは回収されたままという、生徒にとってリスニング学習がしたくてもできない状態でした。

彼女が通っていたのは県立上位高校ですが、英語科の先生は、「自分は文法は教えられるけど、英語は話せない」と生徒たちに宣言していたとのこと。

高校の英語の授業は、英語で行う(オール・イングリッシュ)が導入されて数年後、教育現場は何も変わっていなかったということです。

2. 今まで、英語の発音をしっかりと学んだことがない。

以前私は、高校受験の進学塾で英語科主任を務めていたことがあります。

県立入試には出題されないが、私立入試には出るというのが、発音に関する問題でした。

捨てるわけにはいかない、大きな配点です。

ところが、公立中学に通う生徒たちは英語の発音を学んでおらず、問題が解けません。

そこで塾で対策をすることになるのですが、塾の英語科講師達も正しい英語の発音は出来ないのです。

この状況に対し、将来への危機感を感じた私は、英語科講師の発音指導力を上げるため、発音指導力向上案を会議に諮りました。しかし反対多数。圧力までかけられました。

実はどの現場でも、英会話教育への改革案が持ち上がると、上からの圧力で潰される事実が少なからず起こります。これが英語教育の現場なのです。

このように、英語発音を学ぶ機会はずっと失われてきました。

では、なぜ発音がリスニング力の向上を阻んでいるのか？

それは、発音が出来ないとリスニングが聞き取れないという関係にあるからです。

このあと、詳しく述べていきます。

目次

1. なぜリスニング力を上げるためには、発音矯正が必要なのか？

- 英語の発音が出来ると、英語力の伸び方が大幅に変わる。
- 英語ネイティブ講師には、英語の発音が教えられない？
- 発音の学習が、リスニング力と英会話力の向上へつながる。

2. 発音の習得と定着のために最適なツール「洋楽」を使いこなす

■英語習得を妨げる最大の壁「継続できない・続かない」を乗り越える。

- 歌で覚えると、日本人離れした発音になる。
- 暗記しなくても、口が勝手に英語を覚える。

3. 英語美整発音メソッドによる具体的な練習方法

- Step1. 日本語で英語の意味を理解する。
- Step2. 英語の歌詞と日本語の歌詞をすり合わせて確認する。
- Step3. 文法の確認
- Step4. 英語を英語のまま情景で浮かべる練習(サイトトランスレーション)■Step5. 音読
- Step6. リピーティング(発音のルールに注意して行います)
- Step7. 口パクしながらリスニング
- Step8. オーバーラッピング練習
- Step9. シャドーイング練習
- Step10. 感情を乗せて歌う
- おまけの Step11. 発音がネイティブ級になる歌い方

1. なぜリスニング力を上げるためには、発音矯正が 必要なのか？

■英語の発音が出来ると、英語力の伸び方が大幅に変わる。

先進国のなかで、英語が話せないのは日本人くらいであるという不名誉な話を聞いたことはありませんか？

例えば、人と人とのコミュニケーションを円滑にし、感謝の思いを伝える、

“Thank you very much.”

しかし、この感謝の言葉すら、日本人の英語は相手に伝わらないことがあります！

それは、日本語には存在しない発音 thank と very が含まれるためです。

発音が間違えていると、通じないだけでなく、意味まで違ってしまうこ

ともあります。

そもそも会話というのは、「声」を使うコミュニケーション。

それなのに、その声の出し方(発音の仕方)を今まで習ったことがない人の方が多いのです。

中学・高校で6年、大学まで合わせると10年間も勉強してきて、それでも英語が話せないというのは、やはりやり方が間違っているということではないでしょうか。

さらに、英語の発音が出来ないことによるもう一つの問題が、

【自分で発音出来ない音は、聞き取れない】ということ。

発音したことがない音は、耳にリスニング回路が出来ていないため、未知の音として耳がキャッチできないのです。

多くの日本人がリスニングに苦手意識を持っているのは、この理由からです。

幼少期までは柔軟にどんな音も拾える聴覚をしていますが、大人にな

ってからは英語教材を聞き流しているうちに自然に英語を覚えるとは
いきません。

その手法で覚えようとする、大変な時間と労力が伴います。

■ネイティブには、英語の発音が教えられない？

英語を習うならネイティブが一番！というのは、ケースバイケースで
す。

特に発音については、英語ネイティブの外国人(帰国子女)には指導で
きない人が多いという事実を知っておきましょう。

なぜなら、発音を理屈ではなく、自然に身に付けてきたため、音声学を
専門に学んだ人でない限り、どうしたらこの声(発音)が出るのか説明
して指導することができないからです。

例えば、

私たちは、日本語を母国語とする「日本語ネイティブ」ですが、
日本語を勉強している外国の方に、日本語を教えることになりましたと
します。

例として、韓国語には「ず」という発音が存在しませんので、韓国の方
は「ず」と言っているつもりでも、口から出る音は「じゅ」という発音に
なります。

ですから、韓国人の友人は私のことを「しじゅか」と呼ぶのです。

さて、「ず」という発音の仕方を教えるにはどうしますか？

理屈で、口の形や舌の位置を説明できますか？

「よく聞いて、真似して！」としか言えなかったり、なぜこの音が言えな
いのか理解できなかったりしませんか？

これが“Repeat after me.”の状態です。

英語をネイティブ講師から習っていた受講生さんから伺う共通のお悩みは、

「外国人の先生は、“Repeat after me.” というばかりで、結局よく分からないままだった」という物です。

実際に、都内で英語スクールを経営するアメリカ人から「日本人のカタカナ発音は、どうしても海外では好ましくない。しかしネイティブの自分には、発音を直す指導ができない」と、日本人の私が発音矯正分野を依頼されたこともあります。

私の周りの知り合いの外国人英語教師たちも、「発音の指導は自分には無理」という人ばかりです。

元イエール大学教授/斎藤淳先生のご著書『世界の非ネイティブエリートがやっている英語勉強法』の中にも、「発音矯正が、イエール大学で行っている非ネイティブのための英語習得法。その際は、音声学を専門に学んだ人から発音を学ぶことが重要である。」と書かれています。

しかし問題は、英語の発音を指導できる教師が圧倒的に足りていない
ということ。

述べたように、単に英語が教えられることと、発音を教えられることは
違います。

英語音声学を学んでいなければ、

- ・日本人の英語の先生も発音は教えられる。
- ・ネイティブの英語の先生も発音は教えられる。

発音を学べば、リスニング力が上がり、英会話はもっと早く習得できる
というのに、

その指導者がいないのです。

日本人の英会話上達を阻んでいるのは、発音を学ぶ機会がないことだ
と私は思っています。

■発音の学習が、リスニング力と英会話力の向上へつながる

読み書きは座学と知識の分野ですが、リスニングとスピーキングは実技の分野です。

スポーツと同様、どんなにルールを知っていたとしても、実際にプレーできるようにはならないのと同じです。

実技練習を行う時、自己流でやると変なクセがついてしまい、逆に上達の妨げになることもあります。

同様に、カタカナ英語でどんなにリピート練習をしても効果がないばかりか、英語が通じない・聞き取れない原因を深めることになり、結果的には英語の苦手意識を助長します。

【発音できないと聞き取れない ⇔ 聞き取れない音は発音もできない】

この問題を解決するには、

【先に自分の発音を正しい音声に直す】ことが大切なのです。

これにより、

自分の英語の発音(英語の声を出すこと)に自信が持てる。

一発で相手に通じるようになる。

相手の英語も聞き取りやすくなる。

英語でコミュニケーションを取ることの楽しさが分かる。

自信も付いて、もっと積極的に英語で話したくなる。

このようなプラスのサイクルへと変わります。

英会話に強い苦手意識を持つ方は、「発音」が根源であるケースも多くみられます。

しかし「発音」は、今までの英語学習でもっとも後回しにされて来た分野のため、きちんと習ったことがない人の方が大多数のはずです。

英語の発音を集中して直して頂ければ、その日から耳からフタが外れたかのようにリスニングがラクに聞こえ始めるなど、大きな変化を実感する方がとても多いです。

できないのではなく、知らないだけのことも多い、「発音」という新分野からの英語学習アプローチを取り入れることが、今後の英語に対する苦手意識を大きく変えていきます。

その変化を手に入れた喜びの体験と自信こそが、長年の苦手意識を外すカギとなるのです。

2. 発音の習得と定着のために最適なツール「洋楽」 を使いこなす

Merit1. 英語習得を妨げる最大の壁「継続できない・続かない」を乗り越える。

英語を習得するのは一朝一夕とはいきません。少なからずかかる時間の道のりの中で、「辛い」「つまらない」というイメージがあると、続けて行くモチベーションを保つのが難しくなります。

資格試験に向けて頑張らなければいけないような時には、短期集中で単語や文法を詰め込みますが、それはあくまでも短期決戦の場合です。

集中力というものは、瞬発的だからこそ発揮できるものであり、長時間は続けられません。

モチベーションを保ち続けるコツは、自分の好きな物、興味がある物と英語をつなげることです。

そこで、洋楽を利用することになります。

自分の好きな曲を選び、英語の歌詞を学んで、英語の歌を歌い続けているうちに、英語が英語で理解できるようになってきます。

そしてその感性がそのまま理解できるようになってくるということに、さらなる喜びが生まれてきます。

喜びを得ることで、さらにもっと頑張りたいというモチベーションが上がります。

好循環のスパイラルに入ると、私の生徒さんたちは、寝る間を惜しんで洋楽に夢中になることもあります。この時は、「やらなければ」という義務感ではなく、「やりたい！」という気持ちが抑えられないという感じですので、英語の学習そのものが「楽しみ」として、自ら継続したくなってしまうということです。

Merit2. 歌で覚えると、日本人離れした発音になる

日本人の私達は、全ての音に母音が入っているという言語を話します。

そのため、母音を入れないと収まりが悪いような気がしたり、リズムの調子が掴めないような感覚になります。

しかしそれでは、英語を話す時に不自然な響きになってしまうのです。

英語は全て母音がセットになっているわけではなく、子音で終わる傾向があります。

また、音が繋がってくっつく現象、音が消えてなくなる現象、音自体が変化してしまう現象など、日本語とは少し異なる発音ルールがあります。

そのような英語独特の発音ルールも、洋楽(曲)に乗せて英語を声に出すと、自然に再現できるようになるのです。

メロディーに乗せて歌うと、カタカナ発音をしていたらリズムに合いません。

半強制的に、勝手に正しい発音に変わってくると言えるかもしれません。

実際に、歌で「外国語」を覚えた人は、それが英語を覚えた日本人であろうと、日本語を覚えた外国人であろうと、とてもきれいで自然な発音を身に付けているのが共通した特徴です。

このように、歌(洋楽)を英語発音を磨くための教材にしていただけると、日本人離れした滑らかな自然な英語がスルスルと口から出てくるようになります。

Merit3. 暗記しなくても、口が勝手に英語を覚える

自分が好きなアーティスト、好きな曲なら、反復練習が辛くありません。趣味とイコールになるからです。

好きな曲や、モチベーションの上がる曲など、五感に響く曲ならば、何回でも歌いたくなります。この繰り返しで、いつの間にか、ストレスを感じることなく、英語が落とし込めていきます。

英語が話せるようになりたい！と思いながら、なかなか叶わない原因の一つは、
英語を話すことに慣れるまで話す量が足りていないということです。

ピアノが弾けるようになりたい！と思いながら、いつまでも弾けないとしたら、
それは指が鍵盤を覚えるまで弾く練習量が足りていないというのと同じことです。

繰り返しますが、英語を話すことは、知識ではなく実技です。

スポーツや楽器と同じで、経験値に比例して徐々に身に付いてくるものですから、単純に練習量が足りていないだけなのです。

そこで、頭ではなく、口に記憶させるためには、英語の文章を繰り返し声に出さなければいけないのですが、もしこれが、たとえ意味が無い言葉でも、メロディーが付いているとなぜか勝手に口が記憶するという経験はありませんか？

例えば、「♪サラガドゥーラ・メチカブーラ・ビビディ・バビディ・ブー」

これは、言葉ではなく、まったく意味のない音の連続ですが、なぜか特に後半の部分は、ほとんどの方がしっかり覚えていますね。しかも必死に努力して暗記した人はいないと思いますが、いつの間にか口ずさんでいるのです。

つまりこの調子で、意味のある英文をメロディーに乗せて歌うなら、正しい英語をいつの間にか覚えられるということなのです。

3. 英語美整発音メソッド 具体的な練習方法 10 ステップ

Step1. 日本語で英語の意味を理解する。

洋楽の歌詞には、日本語訳(和訳)が付いています。

まずはその和訳から確認しましょう。

英語の前に日本語？と意外かもしれませんが、

意味を分からずに歌っていても、英語の習得にはつながりません。

どんな歌詞なのか、まずは歌詞の意味をきちんと把握することから始めます。

英語美整発音メソッドのレッスンでは、英語の学習を目的としているので、

英語の歌詞に忠実に直訳した和訳を使って学習します。

一般的には、洋楽の歌詞の和訳はほとんど意識なので、
インターネット上にある個人のブログなどは、
訳者によって異なる和訳が付いています。

慣れてきたら、英語の歌詞と照らし合わせて、
いくつかの和訳を比較すると楽しいでしょう。
自分なら、こう訳すな！という感覚も分かってくるので、
ぜひオリジナルの和訳も付けてみてください。

Step2. 英語の歌詞と日本語の歌詞をすり合わせて確認する。

次に、英語の歌詞と和訳を見比べて確認します。

しみじみ歌詞の英語を読んでもみると、

実は洋楽は、ほとんどがすでに知っている易しい単語で構成されてい
ると気が付くと思います。

それでもまれに、初めて見る単語も出てくるかもしれません。

そんな時は和訳と英文を見比べてすり合わせ、
単語の意味を推測してみる、という作業を行います。

そのようにして歌の中で出会った新しい単語は、
自分の好きな事・楽しい感情とつながっていますので、
根性で暗記した単語と比べて、記憶への残りやすさが 10 倍違うはず
です！

Step3. 文法の確認

Step2. で交互に照らし合わせて読み進めてみると、

洋楽の歌詞はとても易しい単語、そして易しい文法で構成されていることにも気付くと思います。

実は洋楽のほとんどは、中学英語レベルの単語と文法で出来ているのです！

和訳とすり合わせて読むだけでも、辞書なしで英語の歌詞が理解できるという自信と喜びが得られると思いますよ。

中学英語の文法も忘れてるかも・・・という方も、再会することで思い出していきましょう！

※まれに、意味不明な英語表現と出会うこともあると思います。そんな時は、実は英語ネイティブにとっても、意味不明だったりします！

例えば大ヒットソングの、Backstreet Boys / I Want It That Way は、
その歌詞の意味が分からないとファンの間で物議を醸しましたが、
Backstreet Boys が直接「自分たちにも分からない」とツイートした
エピソードがあります。

Step4. 英語を英語のまま情景で浮かべる練習(サイトトランスレーション)

サイト・トランスレーションとは、あまり聞いたことがないかと思いますが、
これは通訳の方が行う練習法です。

もちろん、一般の方にも効果絶大な練習法ですよ！

英語を文章単位で日本語に訳すのではなく、

かたまり単位で意味をとらえ、日本語ではなく情景・絵に訳していくという練習です。

かたまり単位で訳しながら読み進めることを、スラッシュリーディングなどと言います。

日本の学校教育では、

英文を読む→日本語に訳す。

この作業の中で、一文を読み終えてから、きちんとした日本語に訳す練習をします。

もちろん、英文を正しい日本語に訳すことは、時と場合によって必要なことですが、

実はこれは「戻り読み」とも言われ、スピードが必要な読解や会話においては、最も妨げになるやり方です。

以下に、従来の戻り読みの訳し方と、スラッシュリーディングの訳し方を挙げます。

(学校で学んできた翻訳例—戻り読み)

I went camping with my friends last weekend.

私は先週末、友人達とキャンプへ行きました。

(速読のための翻訳例—スラッシュリーディング)

I / went / camping / with my friends / last weekend.

私は / 行った / キャンプへ / 友人達と / 先週末

この時、

I=「私」という日本語にするよりも、

I=「😊」というように、絵で頭に浮かべましょう。

また、英語は単語単位で区切る必要はなく、

自分で無理なく解釈できるかたまり単位で区切ります。

例)

I went camping / with my friends / last weekend.

私はキャンプへ行った / 友達と / 先週末

このように、意味のかたまりごとに英文を区切ってスラッシュリーディングをしながら、
絵や情景にして頭に浮かべて行くのが、サイトトランスレーション(略してサイトラ)です。

かたまり単位で翻訳するくせを付けると、
速読力と同時に、速聴力も上がり、
英語を英語で理解できるようになります。
ぜひ身に付けてくださいね！

Step5. 音読

いよいよ英語を口に出していきます。

歌詞を声に出してしっかりと読み上げていきましょう。

単語は簡単ですが、ここで実際声に出してみると、

意外と、思ったより口が回らない。

苦手な発音がある。

などの発見があるかもしれません。

もし、苦手な発音や、言いにくい単語を発見したら、印を付けておきましょう。

それを課題として、上手に出来るまで集中して練習していきましょう。

Step6. リピーティング(発音のルールに注意して行います)

講師の後について、リピート練習を行います。

ここで注意するのは、

- ・リエゾン
- ・同化
- ・リダクション
- ・フラッピング

など、全て忠実に、自然な英語で丸ごとリピートすること。

完コピするつもりでリピート練習します。

これにより、発音が上手になるだけでなく、
リスニング力も同時に上がる効果があります。

Step7. 口パクしながらリスニング

Step6. のリピーティング練習の時に、自分の口で再現した

- ・リエゾン
- ・同化
- ・リダクション
- ・フラッピング

などが、聞こえてくる英語と合致しているかどうか、
耳で確認しながら口パクして合わせてみます。

文字では書いてあるけど、言ってない！

などに気が付くと思います。

ここでは、まずは聞こえてくる英語と口の動きを合わせることに集中しますので、

声を出さなくて大丈夫です。

ポイントは、全力口パク！

発音を再現するつもりで、特に日本語には存在しない発音は気を付けて、ハッキリと口の形を再現しましょう。

Step8. オーバーラッピング練習

いよいよ、声に出して洋楽を歌っていきましょう！

洋楽の場合は一緒に歌うことで、
オーバーラッピング(声を合わせる練習)になります。

好きなアーティストが先生になる！

そんな気分で一緒に練習する楽しいパートです。

そう思ったら、練習を練習と思わず、

何度でも繰り返したくなりますね！

Step9. シャドーイング練習

モデルとなる英文を、一拍遅れでリピートする練習です。

シャドーイングはとても難しい練習ですが、
スピーキング力を上げるためには、とても大きな効果があります。

最初は英文を見ながらでもよいですが、
最終的には英文を見ないで行うと、より効果的です。

耳と口、両方のセンサーに全神経を集中して行いましょう！

途中で英語からはぐれてしまったり、置いて行かれることがあっても、
分かる所からまた戻ってくれば大丈夫です！

シャドーイングも、何度か繰り返しましょう。

Step10. 感情を乗せながら歌う

自分がどんな英語(内容)を口から出しているか、
きちんと理解した上で歌うことが大切であると、Step1.で述べました
ね。

ステップ10では、歌う時に、
一行ずつ、サッと和訳を見てから、
英語の歌詞を見て歌います。

和訳と英語を、チラチラと交互に見ながら歌いましょう。

頭の中に、日本語の意味が入っている状態で、
口からは英語を出す！

この練習をすることで、
英語が感情と共に口から出てくるようになります。

また、英語を会話などでアウトプットする時、
単語の羅列ではなく、
英語がフレーズとして繋がって口から出てくるようになりますよ。

おまけの Step11. 発音がネイティブ級になる歌い方(実はここがキモ！)

ここまで出来たら、最後のチャレンジ！

発音がピカピカにきれいになる練習として、
発音記号を見ながら歌ってみましょう！

オリジナルの歌詞カードには、

発音記号が添えてあります。

この発音記号を見ながら歌う練習をすることで、
なまりのない、プロパーな発音が出来ようになるのです！

[f]や[θ]など、
日本語には存在しない発音記号が来た時に、
曖昧にせず、しっかり忠実な口の形を作ること。
最初は大げさなくらいでちょうど良いです。

それを意識して歌っていると、
ある日、いつの間にか本物の発音が「自動化」されていると気付きます。

自動化＝発音マスターということ！

あなたも発音マスターを目指して、
私と一緒に楽しく頑張りましょう(^^)！

さいごに

英語美整発音メソッドでは、

「正しくきれいな英語発音と自然な英語を身に付ける」

そんなレッスンをお届けしていきます。

その結果、手に入る物は、

「自分の発音が正しく変わることで、リスニングも格段に聞き取りやすくなる」という効果です。

私の指導理念は、「心が喜ぶ学習こそ、脳が喜ぶ学習になる」ということ。

なぜなら、記憶は感情を伴った時、深く強く刻まれます。

辛かった感情と出来事が結び付き、思い出すたびにその辛い感情がよみがえることをトラウマと言います。

何十年も前のことなのに、辛い記憶をいまだに思い出すことがあるとしたら、

それだけ「感情」と結びついた出来事だったということですね。

例えば、

- ・中学の授業で音読をした時、発音を笑われたり、「カッコつけてる」などと言われて、傷ついた。

- ・先生に、みんなの前で「発音が下手だね」などと言われて、嫌な思いをした。

- ・テストでは符号抜けなどの些細なミスで×となり、努力が点数として報われずに落胆した。

このように辛かった記憶と英語が結び付くと、「英語トラウマ」となって、英語に苦手意識を持つことになってしまいます。

しかも日本の学校英語教育では、この英語トラウマが付かない方がおかしいくらいです。

一方、

楽しい！嬉しい！という強い感情と共に経験したことも、ずっと記憶

に残ります。

例えば、

・困っている外国人旅行者を助けたら、何度も何度もお礼を言われて嬉しかった。

・ネイティブから自分の英語を褒められた。

・海外旅行先で英語が通じて、自力で現地の人とコミュニケーションが取れた。

その時自分が使った英語のフレーズは、一生忘れることはないでしょう。

テスト対策などで頑張る暗記物は、瞬発的には伸びますが、長期記憶には入りません。

この記憶と感情のシステムを利用して、「嬉しい！楽しい！」と、心が喜ぶ物につなげて、

自分にとって「心地良い物」を教材として取り入れてしまうことが大切です。

もしその中の一つに洋楽があるのでしたら、生きた教材としてこれほど最適な物はありません。

なぜなら、私自身が、英語力ゼロから国内独学で英語習得を叶えた方法も、洋楽だからです！

しかし、洋楽をただ聞き流しているだけ。なんとなく聞いているだけ……。

これでは、何十回、何百回聞いても、残念ながら英語の習得には至りません。

「聞き流しているだけ」で英語が習得出来てしまうのであれば、洋楽ファンは全員ラクラク、勝手にバイリンガルになってしまうはず、ですよね？

「洋楽は好きなのに、英語はしゃべれない」

洋楽ファンには、そのような人の方が多いのではないかと思います。

実は、洋楽を使って英語習得につなげる効果的な方法があるのです。

それはまさに、私が自分を実験台にして確立してきた、裏付けのある方法。

このやり方に沿って頂ければ、好きな洋楽を使って、ストレスなく、楽しく、

いつの間にか、英語の習得・英語力が延びてくるということを叶えることが可能です。

その中でも、特に洋楽が効果を発揮するのは、発音のレベルアップです！

リスニングを上げるためには発音を変えることの大切さについて述べましたが、

洋楽を歌うことで発音が上手くなる理由は、3 つです。

1. 英語習得の最大の壁「学習が続かない」を乗り越える
2. 日本人離れした発音になる
3. 口が勝手に英語を覚える

・音の連結(リエゾン)や脱落(リダクション)など、英語独特の発音の法則が、頑張らなくてもいつの間にか自然に言えるようになってしまう。

・カタカナ英語とは異なるネイティブ発音のリズムを、メロディーに乗せて口に出すうちに、日本人離れした発音になってくる。

効果的な学習方法については、この後しっかりとお伝えしていこうと思いますので、

ご自分の好きなアーティストで！好きな曲で！

ストレスの無い、楽しい英語習得を目指して頂きたいと思います。

プロフィール

英語美整発音メソッド 開発・指導者

元国立茨城大学工学部 英語非常勤講師

フリーアナウンサー

日英バイリンガル司会

根本 紫都香(ねもと しずか)

英語指導歴 25 年以上、延べ 5 万人以上を指導。

元々英語が大の苦手だったが、留学なしに独学で英語を習得した自らの結果から、

洋楽を使った独自の勉強法を確立。

ネイティブ並みの発音力、リスニング力、

英語を楽しく続けるためのメンタルアップ法をベースとした、

ストレスフリーに英語を習得する完全オリジナルの「英語美整発音メソッド」を開発・指導。

受講生には、

- ・TOEIC が 3 ヶ月で 200 点近くアップ した！
 - ・字幕なしで映画が見られるようになった
 - ・海外で自分の英語が一発で通じるようになった
 - ・ネイティブから発音を褒められるようになった
 - ・留学先の入学試験英語面接で第一志望に合格
- などが続出。

そのメソッドは、国立大学の授業でも取り入れられ、
大学の授業アンケートでは「満足度 100%」を連続獲得。

東京オリンピック・パラリンピックに向けた、
英語が話せるボランティアを 50,000 人育成する東京都のプロジェクト

「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」では、最多講座数を担当。

全講師の代表として、東京都のレガシーとなる記録映像の収録に協力。

東京都のウェブサイトにも、英語学習のコラムを毎月寄稿。

英語力アップを通して、
なりたい自分になれる自信を得てもらうことが、
最大の喜びであり、指導理念としている。

また、フリーアナウンサーとしても活動し、
FM ラジオパーソナリティー、
テレビの英会話番組の企画・制作・出演の他、
国際会議等のバイリンガル司会、英語ナレーション・CM も多数。

プロならではの技術を使い、
「伝わりやすい話し方」が短期間で身に付く、
話し方講座も主宰している。

【講演】

- ・茨城大学「生きた英語を楽しく学ぶために」
- ・日立市立滑川中学校「プロの方の話を聞く会」
- ・日立市立多賀中学校「職業人の話を聞く会」

【行政研修】

茨城県行方市・教育委員会主催

中学校英語科教員及び小学校教員向け外国語指導力向上研修

「英語発音カレベルアップ研修」

【日英バイリンガル司会】

・外務省飯倉公館 外務大臣及び茨城県知事共催 セミナー・レセプション 日英バイリンガル司会

・WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 レセプション
日英バイリンガル司会

・第17回 世界湖沼会議 日英バイリンガル司会

・東京都主催 外国人おもてなしフォーラム 司会 他

【メディア】

・地上波エリアテレビ なめテレ

「英会話ボイスレッスン」

「外国人としゃべっちゃお！」

企画、制作、出演

・FM ひたち

生放送情報番組「夕焼け小焼け after4 SHIZUKA の英語コンサルティング」

洋楽音楽番組「ゆるゆるロックエンジェル」担当

【翻訳】

・2016 年 G7 茨城つくば科学技術大臣会合 各国大臣への配布
パンフレット英訳

・ケーブルテレビ J-WAY 制作番組 英語字幕訳

・第 17 回世界湖沼会議 映像英語字幕訳 他

【ナレーション】

・2016 年 G7 茨城つくば科学技術大臣会合 展示映像英語ナレーション

・イーアスつくば館内アナウンス(日本語・英語)